

# 全国経理教育協会 理事長インタビュー

「挑戦者でありたい。これからもずっと。」

人生の舵を取る時、いつも挑戦となる道を選んできたー。

全国経理教育協会に40年以上ご尽力いただいた渡辺敏彦理事長に、これまでのご経験や、次世代へ繋ぎたい想いをお伺いしました。



全国経理教育協会  
第14代理事長 渡辺 敏彦

## 1. 渡辺理事長が教育に携わることになったきっかけは何でしょうか？

私が大学に入学したのは、団塊の世代まさに始まりの時代。入学するのも競争率が高く、卒業するにも就職希望者が多すぎて就職難の時代でした。自分の力でやっていかねばならない、一人で生計を立てるなら語学だと考え、フランス語を習得するためフランス留学を決意。何故フランス語かというと、英語は既に有名な教育者がいたので、まだマイナーであったフランス語を選んだからでした。

2年程フランスで語学を学び、26歳の時に帰国。飛行機のタラップを降りながら、ある一つの構想が頭に浮かんでいました。それが、この後池田（現NSGグループ会長）とともに始めた学習塾でした。

東京で運輸省認定のフランス語通訳として塾の講師をしながら、塾を開業するための情報収集に励みました。そして29歳の時、故郷の新潟へ戻り、池田と一緒に学習塾を創業。これが、私が教育に携わる第一歩となりました。

## 2. 経営者としてのご苦労や印象深い出来事がありましたら教えてください

学習塾を始めたばかりの頃は、やはり生徒集めが大変でした。最初は実績がないので、信用もない。まずは学生を有名校に合格させて、実績をつくることからでした。

塾は木造2階建てで、1階は学習塾、2階は大人向けの教養語学講座を開講。フランス語や英語、中国語、洋裁や生け花など専門の先生を雇っていたので、大人向け講座は口コミで徐々に生徒が増えていきました。新聞折込チラシを版のみ印刷屋にお願いし、チラシ印刷もしました。学習塾も順調に生徒が集まりました。

32歳の時（学習塾設立3年目）、専門学校を開校。第一回目の入学式をホテルオークラ新潟

で開催し、校長として80人の希望に満ちた学生を前にスピーチした時のことは、今でも印象に残っています。

現在、新潟に29校、福島に5校の専門学校があり、大学も3校開校しました。また、長年の学校経営で蓄積したノウハウは多くの需要があり、全国各地の専門学校立ち上げに関わらせていただきました。新潟から全国へ、我々の育んだノウハウを広めていくことが出来たのは、大変意義あることだったと思います。

学校の成長とは、学生の成長と同義です。学生たちを教え育みながら、教える側・運営する側の我々も日々学び成長していくことが、学校運営の成功の秘訣かもしれません。

## 3. 全国経理教育協会（全経）に関わるきっかけは何だったのでしょうか？

全経との出会いは、私が34歳の頃でした。知人から全経のことを聞き、経理教育に関わる者としてぜひ入会したいと思い、入会申請書を提出。入会するまでには、大変厳しい審査と面接があったのを憶えています。

入会してからは、会員から始まり委員長、関東地方会長、常任理事、副理事長（10年）を経て、2021年6月に理事長となりました。

全国組織であり、厳しい審査を経て入会した先輩方は、経営者として、人間としてとても優秀な方が多く、自身の視野を広げるためにも全経に入会して良かったと思っています。

## 4. 全経での活動の中で特に思い出に残っているのはどんなことでしょうか？

青年部会での活動は特に思い出に残っていません。この会には若手経営者の会員が入っていましたが、全国にあるお互いの学校を訪問したり、各々が持っているノウハウについても活発に話し、意見を交換する機会が年4回程ありました。



経営者はともすれば閉じこもってしまいがちですが、多種多様な意見を持つ彼らとのコミュニケーションが、私にとって多角

的な物の見方を育んでくれました。

また、全経の大きなイベントである「全国簿記電卓競技大会」には、私自身力を入れて取り組んできました。努力に比例して成果が上がる、目標に向かって練習を重ねるといのは教育技法としても有用であり、実際の大会で鬼気迫る勢いで電卓をたたく学生たちの熱量には、いつも圧倒させられました。

私の学校で初の電卓部門優勝者は、一本指のみで物凄い速さと正確さで電卓をたたいており、その姿は美しくもありました。何かを極めるといのはこういうことかと、納得したものです。

2023年からは、「全国簿記競技大会」として簿記のみネット試験での開催となります。社会の流れに合わせて開催方法は変わりますが、学生の皆さんにはこれまで同様、奮って参加していただきたいと思っています。

#### 5. ご苦労されたのはどのようなことでしょうか？

私が理事長に就任した時期は、ちょうどコロナの影響で色々なことが思うように出来なくなっていました。試験の受験数も減少してしまい、苦戦を強いられました。試験会場には人が集まるため、少人数で受験できる CBT・IBT 試験（ネット試験）の整備が最優先であるということで、全経の試験をネット試験対応するよう動き出しました。

#### 6. 今後の全経に期待することとは

先にも述べた通り、全経の各検定試験を CBT、IBT に対応させ、多くの人に知ってもらえるよう推進していただきたいと思います。

また、私はこれからの日本の人材教育目標 3 本柱は「IT」「語学」「会計能力」だと思っています。今後社会を担っていく若者に、もっと会計能力を身につけてほしい。会計を知るとい

のは、企業の動きを知るのと同義です。この 3 本柱のうち、とりわけ会計能力の育成に関して文部科学省に働きかけをして、学習指導要領にも反映されることを願っています。

#### 7. 働くうえで、渡辺理事長が大切にしている言葉やポリシーを教えてください

「叩けよ、さらば開かれん」。この言葉は私が迷い、行き詰った時に必ず思い出す言葉です。

私は人生の舵を取る時、挑戦の道を選んできました。挑戦し続けることで、新たな出会いがあり、人との縁が広がっていく。私は現在、40 年程「新潟いのちの電話」のボランティア活動を支援しており、その他にも日米協会、新潟・フランス協会、経済同友会、ロータリークラブなど数多くの団体に携わっていますが、これらも全て人のご縁からです。全経とのご縁は、その中でもひと際濃いものとなりました。私は“第一世代”最後の一人として、全経の素晴らしさを後継者へ“繋ぐ”のが大きな役目であると思ってきました。それが果たせたかどうか、後継者の皆さんには協会の活動を通して、若者の未来を照らすことが出来るよう、これからも挑戦を続けていってほしいと願っています。私自身、これからもずっと、挑戦者でありたいと思っています。

最後に、卒業式で学生に贈るサミュエル・ウルマンの詩「青春」から一節。

「青春とは人生の或る期間を言うのではなく、心の持ち方をいう。バラの面差し、紅の唇、しなやかな手足ではなく、逞しい意思、豊かな想像力、燃える情熱をさす。信念と自信と希望を持ち続ける限り君は若い。」



2023年5月26日  
ホテルイタリア軒にて